

# 登山月報

平尾台、英彦山山系で第50回全国登山体育大会を開催	1
平成23年度参与会報告	2
第2回日本山岳遺産サミットが開催される	2
今年も『総合会議』開催	3
平成23年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)報告	3
ワールドカップ2011成績一覧、寄贈図書	5
第37回 Mountain World	6
日本の山岳切手シリーズ②	7
岩手県山岳協会70周年記念式典挙行	7
岳都・松本「山岳フォーラム」	8
平成23年度臨時理事会議事録	8
JMA、編集後記	11

## 平尾台、英彦山山系で第50回全国登山体育大会を開催 ～荘厳神秘縄文と人間とのかかわりをテーマに～

平成23年10月28日～30日、全国から202名の仲間をお迎えして、第50回全国登山体育大会が、福岡県山岳連盟主管のもと、日本三大霊場英彦山を中心に、「荘厳神秘縄文と人間とのかかわり」をテーマに開催されました。

三年前に開催依頼を受け、会場は何処で、何をテーマにするのか、いろいろ検討を重ねてきました。福岡には、高い山も、奥深い山も、さらには特別に優れた景観を持つ山もありません。福岡で唯一有名なところが英彦山です。英彦山の麓からは、縄文石器時代前期の遺跡が出る、古い時代から人の営みがあり、山岳信仰のメッカでもあります。そこで歴史と信仰をテーマにすることとし、それに北九州市のカルスト台地の美しい羊群原と鍾乳洞を持つ平尾台を加えて、開催することにしました。

和歌山・奈良大会、さらに前回の静岡大会に参加し、それらを参考に、準備を重ねてきました。登山道はある程度整っていますし、山行きのキャリアの豊富な皆さんをお迎えするのですから、過剰な安全対策はいらないと思いました。しかし、何しろ300名近くの方々をお迎えすることですので、安全面に十分配慮しました。予定のコースの担当を決め、その担当で足しげく、コースを歩き、危険な場所にはロープを張り、エスケープルート、救護体制、救護車の配置等も考慮しました。さらに、体調不良者や

負傷者が出た時の対策として、各コースごとに看護師と救援サルベージ1～2名を配置しました。

また、山そのものに大きな期待が持てないなら、我々案内する側の心配りを、十分にしようと考えました。信仰の山ですから、いたるところに信仰の対象や跡があり、それぞれに謂れがあります。それらを山行中、皆さんに十分説明出来るようにするため、歴史、信仰について勉強しました。そのことで参加の皆さんが、英彦山や平尾台に、より強い印象を持つようになると思えました。

そして10月28日を迎えました。ところが小雨が降りだし、翌日の登山が危ぶまれましたが、当日は小雨が降ったりやんだりだったので、登山には支障ないと判断、全コース予定通り出発しました。

英彦山コースでは、登り口からいきなりのやや急な登りだったこと、雨で足場が悪く、注意深く歩かざるを得なかったこと、南岳の下りの鎖場、稜線から鬼杉への急な下りで渋滞したこと、などで計画よりも多少時間がかかり、A、Bコースでは国指定重要文化財の銅の鳥居(かねの鳥居)を、Cコースでは般若窟の玉屋神社を割愛せざるを得なくなり、残念だったと共に、ご迷惑をお掛けして申し訳なく思います。Eコースは濃いガスで、美しい羊群原が見られず残念でした。しかし、青龍窟を見て頂けたのは、ほんの少しですが石灰岩原を垣間見て頂けたの



宣誓



お別れレセプション

## 平成 23 年度参与会報告

第 50 回全日本登山体育大会が開催された 10 月 28 日（金）に北九州市の「国際会議場」で平成 23 年度の全国参与会が開催された。会には全国各地から 11 名の参与と坂口三郎顧問、神崎会長、内藤、國松副会長、尾形専務理事、仙石常務理事の計 17 名が出席。

会は尾形専務理事の司会で進行され、まず、神崎会長から新体制でスタートした事。平素より本会の運営に対してご支援・ご協力を頂いている事への感謝などの挨拶があり、次いで、今年の参与会以降、逝去された 7 名の物故者へ黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りした。

議事は、尾形専務理事が資料に基づいて本会の現状を説明し、質疑を受けた。

クライミング・ボードでの事故に対する山岳遭難・捜索保険（軽登山コース）の補償内容。全日本登山体育大会の開催時期の見直し。東日本大震災での日山協傘下の岳連（協会）の被災状況などについて質問があった。

また、参与として 10 年以上ご協力いただいた永年参与感謝状の贈呈は、山口定男（埼玉）氏のみで、当日欠席されたので、後日郵送した。

（記 尾形好雄）

## 第 2 回日本山岳遺産サミットが開催される

第 2 回日本山岳遺産サミットが 11 月 3 日、銀座の時事通信ホールで開催された。山岳遺産サミットは山と渓谷社創業 80 周年を記念して設立された日本山岳遺産基金が主催し、今年度山岳遺産に認定されたものを表彰するもので本会も後援している。

関本彰大山岳遺産基金会長、本木總子日本山岳協会顧問の挨拶のあと、日本山岳遺産基金の今年度の活動報告や 2010 年度遺産認定地からの報告があり、続いて 2011 年度遺産認定地の認定証が 2 団体に授与された。

早池峰にゴミは似合わない実行委員会は山頂避難小屋からのし尿のかつぎおろしから始まり、自分が出したものは自分が持って帰るという意識改革まで進められた点が評価されました。

泉・五家荘登山道整備プロジェクトの活動エリアである九州中央山地は五木や椎葉、五家荘など現代の秘境とも呼ばれる山村で構成されています。その山を舞台に登山道や道標の整備、山名の再確認などを行っています。登山道は山と人をつなぐ存在であることを再認識しながら村の活性化も視野にいれ活動されている点が評価されました。



B コース南岳の下り

ではと思います。F コースは予定通り走破できました。ガスで見晴らしは良くなく、黙々と歩くのみでしたが、皆さんの健脚ぶりに感嘆です。いずれにしろ皆さんの確かな歩きで無事大会を終える事が出来ました。高齢化がささやかれる中でも、雨天にもかかわらず、皆さんの元気な歩きっぷりに目を見張るものがありました。日頃のトレーニングのたまものであると思っています。

古い歴史を持ち、あちこちに信仰の対象である祠や神社のある山でした。雨でしたがこれらに接することで、少しでも昔の人たちの思いや自然を感じ取って頂けたら幸いです。参加された皆さんが、それぞれに何らかの形で、英彦山が、この大会が良い思い出になったことを願っています。

また大会の主題が歴史と信仰ですので、開会式の直後に“神々の山（北部九州の山岳信仰）”と題して、森弘子氏に講演をお願いいたしました。山岳信仰について詳しくお話いただき、英彦山をより理解していただくべく、努めました。さらに大会参加者以外の一般の人々にも参加を募り、かなりの人たちが集まってくださいました。結果的にこの事が北九州市と共催にしたことと相俟って、全日本登山体育大会の広報になったのではないかと考えています。

そして歓迎、お別れ両レセプションでは、郷土芸能の披露も考えたのですが、時間の制約もあり、参加者自ら全員で盛り上げてもらう事として、計画いたしました。参加の皆さんのご協力で、かなり盛り上がり、全国の山仲間の交流が、十分できたと思っています。

大会開催に当たり、日山協の役員の方々に、多くのアドバイスを頂き、さらに当日は神崎会長をはじめ、副会長、役員の方のご指導に感謝いたします。

最後に、雨の中見晴らしも良くなく、風景を楽しむことのできない大会となってしまいましたが、皆さんの確かな歩きに感銘し、今大会に参加されたすべての皆さんに、深く感謝してご報告といたします。有難うございました。（文責 足達敏則）



講評を述べる田中顧問

アドバイザーボードを代表して田中文男・日本山岳協会顧問より今年度8団体の応募があり、いずれも素晴らしい活動であったが、上記の点が評価され認定されたとの講評があった。

その後、第二部として三浦雄一郎氏の「家族の絆を深める山登り」、三浦豪太氏の「ミウラ・ドルフィンズ復興支援プロジェクト報告」の特別講演があった。豪太氏のボランティアすることにより自分が社会に貢献しているという「効力感」を感じるという話が印象的であった。最後に川崎深雪・山岳遺産基金副会長の挨拶があり閉会となった。

(記 西内 博)

## 今年も『総合会議』開催

近畿地区山岳連盟の総合会議が、去る12月3日(土)～4日(日)、「滋賀県立比良山岳センター」で開催された。

会議には、近畿2府4県山岳連盟会長、理事長、各委員長など42名が出席し、各府県岳連の活動報告や情報交換のほか、予め設定された「12のテーマ」を5つの分科会に分かれ協議された。

1日目の開会式には、神崎忠男日山協会会長も出席され「日山協の課題と今後の展望について」の講話をいただいた。

協議の主なもの、①国体クライミング競技の審判員、ルートセッターの上位資格取得の問題、②近畿地区で開催する各種大会の運営のあり方、③近畿地区合同指導員養成講習会の開催などであり、とくに①については日山協への要望事項とし、12月8日の日山協常務理事会に提出された。

近畿地区山岳連盟(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山岳連で組織)では、年1回の「総合会議」のほか不定期で年数回、役員会を開催しており、日山協の動きに合わせ情報を共有し、一体となって活動できるよう各種事業の共同開催などに取り組んでいる。

(記 國松嘉伸)

## 平成23年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)報告

平成23年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)が、10月21日(金)～23日(日)に兵庫県神戸市の六甲山YMC A及び瀬戸内海国立公園六甲山周辺を会場に、主催:(独)国立登山研修所・(社)日本山岳協会・兵庫県教育委員会、主管:兵庫県山岳連盟、協力:関西大学総合情報学部で開催された。受講者は、西部地区1府14県と東部地区1県から、合計33名の参加となった。

今回の講習会を開催するにあたり、増え続ける遭難発生件数に少しでも歯止めを掛けるには何を講習すべきかを検討した結果、遭難原因の中で最も多くを占める「道迷い」をテーマとし、それに沿った内容に絞ることに決定した。講義・実技等の内容は後述の通りであるが、特に中高年のベテラン登山者が陥り易い傾向にある方向感覚の過信や視力の低下に伴う地図の誤読等を実技で体験頂くと共に、正確な読図技術を習得し積極的に地図を活用して「道迷い」を防ぐことを目的に講習内容を組み立てた。

初日の開講式では、主催者より国立登山研修所・渡邊所長、日本山岳協会・國松副会長、兵庫県教育委員会・溝口教育次長が挨拶。挨拶の中で昨年の

遭難者数は2396人で過去最高であり、内40歳以上の割合は70%を占めることが告げられた。また、登山は生涯スポーツだが、山の中で行われる危険の内在や人的な危険性も含んだスポーツであるので、「危険を避ける」「やり過ごす」ための技術、知識、知恵が必要であるとの話があった。続いて兵庫県山岳連盟・中西会長の歓迎の挨拶、講師紹介、事務連絡の後、講習に入った。



講義Ⅰ「地図の読み方とナビゲーションマップの作り方」では、国立登山研修所講師で日本山岳ガイド協会理事の三浦講師によるコンパスの正しい使用方法と地形図への磁北線の書き方、更に視界の制限された状況下でも目標点に進行することが可能となるナビゲーションマップの作成方法を講義頂いた。続いての講義・実技Ⅰ「ナビゲーションと装備に関するレクチャー」では、受講者を5班に分け、宿舎周辺のフィールドにて講義Ⅰで作成したナビゲーションマップを実際に活用した実技講習を行いその有効性を体験すると共にコンパスの使い方の難しさを使いこなすことによる効果を実感頂いた。又、装備については、地図の携行方法からファーストビークに必要な装備まで実戦に裏打ちされた講義を頂いた。

2日目の「道迷い体験」実技は、豪雨予報の不安を抱えながら7時に宿舎を出発し、バスで1時間弱の実技エリアへ移動した。現地にて講師の関西大学総合情報学部・青山教授と協力頂く同学部生7名と合流。幸いこの時点での降雨は無く実施可能と判断し講習に入った。実技内容の説明後、受講者を7班に分け各班に講師3名を配し順次スタートした。受講者は、初めての道迷い体験に戸惑いを見せながらも雨天等によるトラブルも無く14時過ぎにスタート地点に帰り着き無事予定を終了し早々に宿舎に戻った。宿舎で暫く休息した後、講義Ⅱ「中高年登山者の行動と遭難」及び講義Ⅲ「道迷い解析・道に迷った時の対処」を引き続き青山講師から受講した。講義Ⅱでは、海外での事故者の年代別分布ピークは、概ね20歳代であるのに対し日本では60歳代がピークで、これは世界的に見て大変特異なケースである旨の話があり、改めて中高年登山者への慎重な行動を促された。講義Ⅲでは、道迷いが転倒、滑落、衰弱の誘因となるケースが多いことや方向感の過信も道迷いの要因であることが指摘された。また、道迷いで元の道に引き返せない時の行動として、一般的に言われる「尾根へ登れ」はあまりにも単純で、上がるか下るか留まるかで最善と薦められる方法は無いことや「道迷い」を防ぐには読図力向上等のトレーニング以外王道はないと警鐘を促された。最後に「迷ったらすぐに歩きださない。まず座り、



「道迷い体験」の実技

5分間以上考えること。」を含む「道迷い防止13訓」を披露され講義を終了した。同講義で予定されていた「道迷い解析」については解析に手間取り翌朝に延期された。

3日目は、前日積み残した「道迷い解析」の結果が講習者一人一人に手渡され、個人の読図力や方向感の偏差と総合評価の見方について青山講師より説明があり各人一喜一憂した。続いての研究協議・分科会では、①「登山形態に合わせた装備の取り組み方」②「道迷いについての地図の活用」③「登山中の自己管理のあり方」の3つのテーマで事前募集した結果、②のテーマに参加者が集中したため①③を統合して2つの分科会での実施となった。①では、危急時に必要な装備や携帯電話の有効性、無線機操作の訓練から装備の軽量化、救急医療品等について協議。③については、日常のトレーニングや入山前の体調のケアから登山中の行動食・サプリメントの使用・水分補給等が協議された。②では登山道を基準としたPLP法の活用、参加者から道迷いの体験談や道迷い遭難者の捜索事例の報告、地図とコンパスの活用や地形に対する観察の重要性等について協議された。

閉講式では、渡邊所長からの修了証授与に続いて青山講師兼日本山岳協会遭難対策副委員長より講評を頂き3日間の講習会を終了した。

(記 兵庫県山岳連盟理事長 古賀英年)

## 1月14日(土) 新春懇談会(アルカディア市ヶ谷) ぜひ! お出かけ下さい!!

地震だ! 津波だ! 台風だ! 豪雨だ! と自然にいじめられた2011年も残り僅かとなりました。日頃から本会の運営・活動にご尽力、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

登山が変わり、また、新公益法人制度で組織も変わろうとしています。この登山を取り巻く環境、時代背景の中であって、今、本会はしっかりした基盤を確立しなければならない重要な時期を迎えております。これからの日山協については、より多くの人たちと、より多くの事を語り合っていかなければなりません。「新春懇談会」もただ新年を祝う親睦会にとどめることなく、組織づくりの重要な事始めの集会と捉えて、各県岳連(協会)から多くの出席をお願いするところです。(社)日本山岳協会 会長 神崎忠男

# ワールドカップ 2011 成績一覽

## 1. ボルダリング・W-cup

<b>第1戦</b>	イタリア・ミラノ	4/15～16
男子:	6位=堀 創, 31位=杉田 雅俊	
女子:	4位=野口 啓代, 23位=萩原 亜咲	
<b>第2戦</b>	スロベニア・ドラグマル	5/7～8
男子:	8位=堀 創, 24位=茂垣 敬太	
女子:	2位=野口 啓代, 20位=小田 桃花, 28位=安田あと, 33位=大田 理姿	
<b>第3戦</b>	オーストリア・ウィーン	5/13～14
男子:	17位=茂垣 敬太, 33位=堀 創	
女子:	7位=野口 啓代, 10位=小田 桃花, 33位=安田あと, 43位=大田 理姿	
<b>第4戦</b>	カナダ・キャンモア	5/27～28
男子:	1位=堀 創, 5位=清水 淳, 12位=茂垣 敬太, 14位=杉本 怜, 22位=杉田 雅俊, 37位=祝 茂雄	
女子:	1位=野口 啓代	
<b>第5戦</b>	アメリカ・ヴェイル	6/3～4
男子:	8位=堀 創, 4位=杉本 怜, 7位=清水 淳, 29位=杉田 雅俊, 36位=祝 茂雄	
女子:	5位=野口 啓代, 22位=梶山沙亜里, 30位=寿村尚良余	
<b>第6戦</b>	オランダ・アイントフォーフェン	6/17～18
男子:	12位=堀 創, 51位=村上 理武	
女子:	1位=野口 啓代, 41位=簾内 由希	
<b>第7戦</b>	スペイン・バルセロナ	6/25～26
男子:	7位=堀 創, 43位=村上 理武	
女子:	1位=野口 啓代, 29位=簾内 由希	
<b>第8戦</b>	英国・シェフィールド	7/2～3
男子:	24位=堀 創, 42位=村上 理武	
女子:	1位=野口 啓代, 22位=簾内 由希	
<b>第9戦</b>	ドイツ・ミュンヘン	8/19～20
男子:	7位=堀 創, 31位=竹内 俊之, 47位=瀬戸 啓太	
女子:	6位=野口 啓代	

## 2. リード・W-cup

<b>第1戦</b>	フランス・シャモニ	7/12～13
男子:	4位=安間 佐千, 27位=松島 暁人, 42位=伊東 秀和	
女子:	5位=小田 桃花, 21位=小林 由佳	
<b>第2戦</b>	フランス・ブリアンソン	7/29～30
男子:	4位=安間 佐千, 16位=渡辺 数馬, 24位=松島 暁人, 33位=藤谷 康平, 46位=竹田 陸人	
女子:	8位=小田 桃花, 26位=小林 由佳	
<b>第3戦</b>	中国・西寧	9/2～3
男子:	2位=安間 佐千, 7位=松島 暁人, 13位=新田 龍海, 15位=渡辺 数馬, 16位=伊東 秀和, 19位=芝田 将基	
女子:	5位=小田 桃花	
<b>第4戦</b>	中国・長治	9/9～10
男子:	3位=安間 佐千, 9位=松島 暁人, 12位=伊東 秀和, 13位=新田 龍海, 20位=渡辺 数馬, 22位=芝田 将基	
<b>第5戦</b>	ベルギー・プース	9/30～10/1
男子:	2位=安間 佐千	
女子:	5位=野口 啓代	
<b>第6戦</b>	アメリカ・ボルダダー	10/8～9
男子:	2位=安間 佐千, 12位=渡辺 数馬, 22位=小澤 信太	
女子:	3位=小田 桃花, 5位=野口 啓代, 12位=大田 理沙	
<b>第7戦</b>	ヨルダン・アンマン	10/20～21
女子:	3位=小田 桃花	
<b>第8戦</b>	フランス・バランス	10/28～29
男子:	3位=安間 佐千, 27位=羽鎌田直人	
<b>第9戦</b>	スロベニア・クラニ	11/19～20
男子:	2位=安間 佐千, 13位=松島 暁人, 19位=芝田 将基, 26位=小澤 信太, 27位=渡辺 数馬, 39位=小西 大介	
女子:	32位=尾上 彩	
<b>第10戦</b>	スペイン・バルセロナ	11/26～27
男子:	3位=安間 佐千, 15位=芝田 将基, 23位=小澤 信太, 24位=小西 大介, 29位=伊東 秀和, 32位=樋口 純裕	
女子:	20位=尾上 彩	

## 寄贈図書

### ●寄贈本●

山と溪谷社『山と溪谷 田部重治選集』  
山と溪谷社『【複製】山と溪谷』  
栃木県山岳連盟『マリ主峰初登頂 帰国報告書』  
一等三角点研究会『一等三角点全国ガイド』  
日本山岳文化学会 登山史分科会  
『顕彰碑にみる人物登山史』

### ●雑誌●

東京新聞出版部『岳人』12月号  
山と溪谷社『山と溪谷』No.920 12月号

### ●会報●

新潟県山岳協会  
健康・体力づくり事業財団  
日本万歩クラブ  
FECC

日本ゲートボール連合  
全日本ボウリング協会  
(独)日本スポーツ振興センター  
日本武術太極拳連盟  
(株)スクールパートナーズ高校生新聞事業部  
(財)国立公園協会  
日本スポーツ少年団  
大韓山岳聯盟  
(社)日本パワーリフティング協会  
日本勤労者山岳連盟

日本体育協会  
日本山岳会  
東京野歩路会  
岩手県山岳協会  
日本山岳会自然保護委員会  
日本山岳写真協会  
Corean Alpine Club

## 台頭する中国のアルピニズム

池田常道

中国人の登山と言えば、長らく、集団による伝統的なヒマラヤ登山を意味してきた。チョモランマをはじめとするチベットの高峰から新疆のムスタグ・アタや四川のミニヤ・コンカまで、そういった枠を脱することがなかった。国外でも、中国西藏登山協会が推進した8000m14座プロジェクトに代表されるように、通常ルートから頂上を往復するスタイルが主流だった。ところがここ数年、そんな風潮に変化が兆している。高峰よりもっぱら5000m～6000m台の山でアルパイン・スタイルを実践するクライマーが、少数ながら育ってきているからで、なかには技術的に難しい課題に挑戦して成功する例もみられるようになった。

四川省の岩登りで名を知られたリウ・シナンは2004年ごろからビッグウォールに目標を据え、四姑娘山やセレスチャル・ピーク、ポタラ山などに新ルートを拓いた。2007年3月にはマ・イファ、チャン・チアンと3人でヤンモーロン（央莫龍）山塊の西峰にあたるダンチェツェンラ（党結真拉、5833m）を第2登したものの、頂上から2ピッチ目の懸垂下降に失敗、転落死してしまった。

2009年秋には、ファン・ゾンファとリ・ヨンが祁連山脈のカンツェジャイ（約5800m）をアルパイン・スタイルで登った。西壁から南稜へ抜けるラインをたどり雪洞ビバーク2回で登頂、北西稜を下ったもので、ルートは「ダークネス・ウォール」（AI3+）と名付けられた。

四姑娘山南壁に執念を燃やしたのがヤン・ドンとツォー・ペンだ。2008年12月に「Chinese Ultimate Expedition」に加わって、92年広島山の会隊（吉村千春隊長）が初登攀したバットレスの右手のラインを試登、5600mで敗退した。翌年2月には2人だけで再挑戦し、アルパイン・スタイルで5950mまで登ったところで氷壁の崩壊に遭い、断念。諦めない2人はその年11月に再び南壁に向かった。23日に入山し、4800mのBCを通り越して基部のベルクシュレント（5130m）でビバーク。24日に登攀を開始して3ピッチ以外は同時登攀、5700mでビバークした。翌日南西稜に出て頂上を往復、

6130mの雪庇で1泊後登りのルートぞいに懸垂下降した。ルート名は「ザ・フリー・スピリッツ」（1000m、AI3 M4）。

ヤンは翌年2月に、邛崃山系岩峰群のウセ・シャ（五色山、5430m）にリ・ランをパートナーとして、南壁から初登頂している。同じ月ヤンは、ブルース・ノーマンド（英）、クリスティナ・チャン（米）と3人で冬のミニヤ・コンカ山群を偵察、レッドメイン（6112m）北壁を試みた。これが契機となって秋にマウント・エドガー（Eコンカ、6618m）東壁を目ざすノーマンドの隊に招かれ、グ・チツィと2人で嘉子峰（6540m）西壁やエドガー北壁を偵察・試登する機会にめぐまれた。

そしてこの秋、みたびツォー・ペンと組んだヤンは、レッドメイン北壁、嘉子峰西壁、小コンカ（5928m）南西壁を立て続けに初登攀するという快挙を成し遂げた。レッドメイン北壁は標高差1000m、AI2、55度で、2人はこれを9時間で完登した。嘉子峰西壁は1500mを超えるスケールで、西壁は以前別ルートから登られているがいずれも稜線で終わっており、頂上まで達したのは今回のペアが初めて。ルート名は「リベラル・ダンス」（M6 WI3）。最後の小コンカは女流カメラマン、リ・シュアンを加えた3人で、2010年韓国隊ルートのバリエーションをビバーク1回で登攀、「スリル」（600m、M6）とした。

これら台頭する新世代クライマーの特徴は、外国クライマーとの交流やネットで得た情報に接して現代アルピニズムの思想にふれ、それを自国の豊富な山岳資源に生かそうとしていることだ。それはおそらく、遠からず中国登山界の構造改革にもつながってくるものと期待したい。



四姑娘山南壁、ヤンとツォーの登攀した「ザ・フリー・スピリッツ」のラインとビバーク地。クローウォールをばさんで一本左が1992年広島隊の登ったバットレス。（ヤン・ドン提供）



高木正孝の文のタイトルであるが、群馬の登山者、クライマーにとっても実感である。もちろん一朝一夕に成った訳ではない。群馬に生まれ、育った登山愛好者にとって谷川岳は南面の沢、東面の一ノ倉沢に代表される岩場と共に憧れないはずはない。

大島亮吉の「近くてよい山なり」、翌1930年の谷川岳登山史上記念すべき年を迎え、天才・小川登喜男らの登場となる。7月小島隼太郎（小島烏水の息子。青山学院高等部）らが二ノ沢左股を「一ノ倉沢初登攀」に成功すると、3日後に小川パーティーは初見参で3ルンゼを初登攀し、幽ノ沢、マチガ沢と初登攀を重ね、冬期初登攀も次々と成功させた。

翌1931（昭和6）年清水トンネル開通による上越線全通は大勢の登山者、クライマーを谷川岳へ向かわせ、東面の岩場の難ルートが次々に初登攀されるが、それらの登山史にも群馬のクライマーたちは

加われなかった。谷川岳の岩場に育てられ、ヒマラヤへ足を伸ばすには未だ数十年の歳月が必要であった。

群馬県山岳連盟は1941年8月「群馬山岳联合会」として発足し、本2011年で創立70周年を迎えた。50周年誌に採録した草創期会員らによる座談会の続編を次世代現岳連長老による座談会を開催し、山岳連盟史を引き継ぎ、残したいと考えている。

近年温泉客の入り込み数減少に悩む谷川岳の麓のみなかみ町は日本記念日協会の認定を受け、本年より「7月2日を谷川岳の日」として制定した。今から91年前の1920年7月2日に藤島敏男と森喬による土樽から茂倉岳、一ノ倉岳、谷川岳と縦走し天神峠から谷川温泉へ下山した近代登山史上の正式な記録として残されている日を記念日にと提案される。誰でも山へ来やすい時期でもあり支持され決定。我々にとってのJRの群馬デスティネーションキャンペーン3ヶ月は谷川岳の山開きから山岳シリーズ切手の発行で閉幕した。（記 八木原聡明）

## 岩手県山岳協会 70周年記念式典挙行

11月5日（土）、岩手県山岳協会（会長高橋時夫）は、創立70周年記念式典を盛岡市内のホテルで開催した。式典には、（社）日本山岳協会・内藤順造副会長をはじめ、平藤淳・岩手県スポーツ健康課長、谷藤裕明・盛岡市長など関係市町村長、東北六県岳連会長、加盟団体、協会役員など150人が出席し開催された。

式典で、高橋会長は、「東日本大震災では、加盟団体会員も尊い命を落とされた。心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。協会70年の歴史には、先輩の皆さんの地道な活動に裏付けられた、いぶし銀の輝きがあります。引続き、安全登山、自然愛護、スポーツクライミング等加盟団体とともに、歴史を刻んでいこう。」と式辞を述べた。また、永年協会発展に尽力された元会長出堀宏明氏ら15人に協会功労表彰、加盟団体で地域での遭難事故防止、社会体育に貢献のあった釜石市山岳協会菅原長一郎氏ら25人に地域功労



賞、国体、インターハイの優勝、選手、監督、学校の岩澤健二氏ら9人に体育功労賞が、岩手山八合目避難小屋の管理業務に貢献された2人に感謝状が贈られた。祝辞で、日山協の内藤副会長は、「しっか

りとした財政基盤と、後継者育成にも努力されており、今後も山岳界の発展に努めて欲しい。また、(社)日本山岳協会の公益法人化にあわせ、取組みが重要となる少年少女登山教室等公益事業にも積極的に取り組んで行きましょう。」と、ブロック岳連を代表して佐々木義宗・秋田岳連会長は、「70年にわたり、山への情熱を持ち続けた志の高い皆様に心から敬意を表します。」と祝辞を述べられた。祝賀会では、さんさ踊りも披露され、盛会のうちにお開きとなった。

岩手県山岳協会は、昭和16年7月12日岩手県山岳連合会として発足した。現在、一般山岳団体

28団体、大学山岳部3団体、高校山岳部16団体の計47団体で組織している。

主な活動では、残雪期講習会、沢登り・岩登り講習会、初冬期講習会、厳冬期講習会等の事業を中心に、岩手山八合目避難小屋管理、鞍掛山トレイルランニング大会、岩手山ボッカ大将、少年少女登山教室の開催を始め、毎年一般県民を対象として県内外の登山教室の実施、春秋のボルダリング大会、クライミング選手権大会等スポーツクライミングにも力を入れている。平成28年には、二順目岩手国体の開催が予定されている。

(記 高橋時夫)

## 岳都・松本「山岳フォーラム」

11月20日、松本駅前のホテルで、松本市主体の実行委員会による「山岳フォーラム」が開催された。登山愛好家、山岳関係者など約1000人が来場し、大盛況だった。

プログラムは、先ず『山と溪谷』の元編集長・萩原浩司氏による「女性ファッションに見る登山史100年」と題した女性の登山の服装史解説に始まり、地元女子大生をモデルにしたファッションショーで最新のウェアが紹介された。

次いで松本市の観光大使を務められる田部井淳子さんが「人生は8合目からおもしろい」の演題で基調講演。

最後に成川隆顕(「山の日」制定協議会代表幹事)、山口孝(北アルプス山小屋友交会会長)、鈴木ともこ(漫画家・エッセイスト)、坪田明男(松本市副市長)各氏のパネラーと鈴木啓介(信州大学山岳科学総合研究所長)氏のコーディネートによる「山を考える」テーマのパネルディスカッションが行われた。増加している若い女性登山



「山を考える」パネルディスカッション

者の気持ち、鹿・サルなどの高山域への進出、「山の日」制定についての考え方、登山道整備の松本市負担の増額など様々な問題が提議された。

(記 穂刈康治)

## 社団法人日本山岳協会 平成23年度臨時理事会議事録

1. 日 時 平成23年11月28日(日) 10:30～14:45
2. 場 所 岸記念体育会館 102～103 会議室
3. 会議の成立状況 (定款第26条)  
定数32名(定足数22名)、出席者25名、委任6名、欠席1名、計32名
4. 出席者 神崎忠男会長(特別)、内藤順造副会長(山梨)、國松嘉伸副会長(特別)、八木原罔明副会長(特別)、松元邦夫副会長(東京)、小野倫夫(北海道)、服部一雄(青森)、尾形一幸(福島)、仙石富英(栃木)、西内博(茨城)、佐藤光由(群馬)、

石倉昭一(埼玉)、高山雅夫(千葉)、水島彰治(神奈川)、高田和彦(石川)、安藤武典(愛知)、堀井啓介(岐阜)、伊藤克己(滋賀)、蓬郷隆治(岡山)、京才昭(広島)、田福正治(徳島)、足達敏則(福岡)、田場典淳(沖縄)、尾形好雄(特別)、相良忠麿(特別) 各理事 以上25名  
(委任者) 宮本義彦(長野)、遠山誠之介(和歌山)、堀井昌子(特別)、北山真(特別)、谷口浩平(特別)、永井豊(特別) 各理事 以上6名  
(欠席者) 寺内丈行(特別)



(同席者) 監事：福田昇、岡本忠良、三尾敦（長野山協副会長）

## 5. 神崎会長挨拶

このところ岩手県山岳協会 70 周年、長野県山岳協会 50 周年、広島県山岳連盟 70 周年と周年慶事が相次いでおり、喜ばしい事です。登山の多様化と共に登山界も変わり、新公益法人化制度で日山協の組織も変わらざるを得ない時期を迎えている。日山協としてはこれをチャンスとして変わるべきだ。組織を変えるには先ず意識を変えなければならない。オールマイティーな登山への対応なくして日山協のリーダーシップはない。日山協としては自信と誇りを持って登山界をリードしていきたい。その為の意識改革を図るべく 3 月の理事会・臨時総会は 1 泊 2 日の日程で行い、各理事及び正会員から忌憚の無いご意見を伺いたい。と挨拶。

## 6. 議事役員の選出

定款第 25 条の規定により神崎会長を議長に選出

## 7. 議事録署名人の選出

定款第 30 条の規定により石倉昭一（埼玉）理事及び高田和彦（石川）理事を指名

## 8. 議 事

(1) 第 1 号議案 平成 23 年度上期事業報告について

尾形専務理事から資料を事前配布しているので詳細説明は割愛し、各担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと報告。

▶ 第 1 号議案 異議無く承認。

(2) 第 2 号議案 平成 23 年度上期会計報告

相良常務理事より議案書に基づき、平成 23 年度の上期収支及び一般会計、特別会計を報告。

▶ 第 2 号議案 異議無く承認。

(3) 第 3 号議案 平成 24 年度事業計画及び予算編成方針について

尾形専務理事より議案書に基づいて平成 24 年度の事業計画及び予算編成の方針案を説明。その後、質疑に入った。

内藤：5 ケ年、10 ケ年の中長期にわたって財源をどこに求めていくのか、収入の計画を立てる必要がある。3 月の予算案提出までには 10 ケ年位の収入計画を提示したい。

▶ 第 3 号議案 提案通り承認

(4) 第 4 号議案 公益社団法人の移行時期について

尾形専務理事より議案書に基づいて、公益社団法人への移行については、平成 25 年 4 月 1 日を移行登記日とし、同日公益法人となる事を提案。

▶ 第 4 号議案 提案通り承認

(5) 第 5 号議案 公益社団法人の定款変更（案）について

尾形専務理事より議案書に基づいて、定款変更（案）第 21 条の理事の定数と附則に記載する代表理事等の役員選任を除いた、他の定款変更（案）

について承認を求めたい、と提案。

安藤：ブロック選出の理事の定数は、どのように考えているのか。

尾形：ブロック選出理事の定数は、現状と同数を考えている。

安藤：理事の数が減る中で、ブロック選出の理事が同数という事では、業務がうまく廻らなくなるのではないか。業務執行は従来通りの運営でいくのか、それとも別な運営を考えているのか。

尾形：理事数が減るので、従来のように常務理事が専門委員会の委員長を兼ねるような運営はできない。専門委員会の委員長は、会社の執行役員のような形で、業務を執行していく事を考えている。

服部：この定款変更（案）だと理事は、正会員でなくても誰でもなれる、という事か。

尾形：定款変更（案）に「理事は正会員から選任」のように規定すると、ガバナンスに抵触（外部理事の排斥）するので、規定できない。理事候補者の推薦については、役員選考規程で規定している。

▶ 第 5 号議案 提案通り承認

(6) 第 6 号議案 公益社団法人への人事案件について  
尾形専務理事より議案書に基づいて、公益社団法人登記時の役員（会長、副会長、監事）の選考について、議案書のメンバー構成で選考委員会を設置して候補者を推薦したい、と提案。

▶ 第 6 号議案 提案通り承認。

(7) 第 7 号議案 参与候補者の推薦について

尾形専務理事より議案書に基づいて、白石崇（愛媛）、衛本秀允（大分）両候補者の承認を提案された。

▶ 第 7 号議案 提案通り承認。

## 9. 報 告

(1) 平成 23 年度上期共済会報告（尾形専務理事より資料に基づいて報告があった。）

(2) UIAA,UAAA 総会報告（神崎会長より資料に基づいて報告があった。）

(3) 日中韓国際交流事業について（西内常務理事から資料に基づき説明があった。）

(4) 第 66 回山口国体報告（高山常務理事から資料に基づき報告があった。）

(5) 平成 23 年度中高年安全登山指導者講習会について（仙石常務理事から報告があった。）

(6) 長野県山岳協会創立 50 周年記念祝賀会の御礼挨拶（長野県山岳協会の三尾副会長から御礼挨拶があった。）

(7) 第 50 回全日本登山体育大会の御礼挨拶（福岡県山岳連盟の足達会長から御礼挨拶があった。）

## 10. 閉 会

会長より 1 月 14 日に恒例の新春懇談会がありますので、是非出席していただきたい、とお願いされ閉会となった。

JMA

守ります。美しい日本の山。

# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

## 救助費用はタダではありません。

### ■平成21年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日)

発生件数 **1,676** 件

遭難者数 **2,085** 人

死者・行方不明者 **317** 人

詳しくは → [www.jma-sangaku.org](http://www.jma-sangaku.org)

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

日時 平成23年11月2日(木)  
17:30~20:30

場所 岸記念体育会館103会議室

出席者 神崎会長

内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、仙石、佐藤、石倉、水島、北山、相良、谷口、寺内、永井、堀井各常務理事

委任 高山常務理事  
(18名中17名出席)

### 1. 専門委員会動静

10月常務理事会以降

(10月14日~11月2日)

#### [報告]

(1) 普及委員会

10月14日(金) 出席者5名

ア 『ジュニア登山教室 in 立山』報告書について

イ 中高年安全登山指導者講習会について

・ 東部地区(秋田): 参加者36名、『登山月報』用報告依頼

・ 西部地区(兵庫): 参加者34名

ウ 第50回全日本登山体育大会について

エ 第2回日本山岳遺産基金サミットについて

オ 平成24年度「ジュニア登山教室 in 立山」について

・ 8/8(水)~11(土)、初日はテント泊

・ 平成25年度以降の会場検討

カ 中高年安全登山指導者講習会の内容について

・ 西部地区終了後に検討

キ リーダー制度について

ク 普及・ジュニア委員会常任委員について

ケ ジュニア情報交換会について

・ 2/18(土)、オリンピック記念青少年総合センター

・ 講師依頼について

(2) 広報委員会

10月14日(金) 出席者5名

ア 『登山月報』11月号編集について

・ 記念切手「日本の山岳シリーズ」発行について(田中顧問)

・ U I A A, U A A A 総会報告(小野寺)

・ 自然保護委員総会報告(松隈)

・ 中高年安全登山指導者講習会(東部地区)報告(秋田岳連・佐藤)

・ 第66回山口国体成績

・ 登攀技術研究会報告(宮城)(指導)

・ 第3回視聴覚障害者クライミング選手権(北山)

・ 駐日ネパール大使送別会

・ 第2回日本山岳グランプリ募集

・ Mountain World

・ J M A

(3) 競技委員会

10月20日(木) 出席者11名

ア 10月常務理事会報告

イ 第66回山口国体実施報告

ウ 第2回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について

エ W C 印西2012大会の進捗状況について

オ ボルダリング・ジャパンカップの進捗状況について

・ セッターにトンデ・カティヨ(フランス)氏を招請。

・ コンペ後、日本代表選手の合宿(講習会)を予定

カ 国体後催県の準備状況について

・ 岐阜県: アイソルームが狭いため、場所を検討中

・ 福井県: 池田町で検討中

キ 平成24年度からの審判員、ルートセッター、競技運営員の登録・更新業務について

ク 東北ブロック研修会(秋田、11/26~27)の講師人選について

(4) 遭難対策委員会

10月26日(木) 出席者7名

ア 平成23年度常任委員の決定について

イ 大山事故報告書(広島岳連)について

ウ 山岳救助ヘリコプター設置の

動きについて

エ レスキュー講習会(東部地区)について

・ クラス1主任: 服巻常任委員、  
クラス2主任: 渡邊常任委員

オ 日中韓国際交流事業について

カ レスキュー協議会について

・ 12/6、CRPの講習会開催、講師: 恵常任委員

キ 講師派遣について

・ 10/29~30 長野山岳救助隊へ町田(幸)常任委員

・ 11/5~6 山梨岳連講習会へ渡邊常任委員

### 2. その他の重要事項

(10月14日~11月2日)

#### [報告]

(1) 中国登山協会前副主席許競氏逝去。享年84歳。10月15日(土)

(2) 登攀技術研修会

10月15日(土)~16日(日)

於: 宮城県第2総合運動場

永井常務理事

(3) 平成23年度自然保護委員総会

10月15日(土)~16日(日)

於: 鳥取県・ホテル大山しらがね

神崎会長、國松副会長、石倉常務理事

(4) Dr. ガネッシュ Y. タマン 駐日ネパール大使送別会・在ネ新旧日本大使歓送迎会 10月18日(火)

於: 東京ジョンプル(朝日生命ビル28F) 神崎会長

(5) U I A A 医事委員会

10月18日(火)~22日(土)

於: スウェーデン・オーレ

堀井常務理事

(6) 消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会

(第4回) 10月19日(木)

於: 経済産業省 尾形専務理事

(7) 第2回全国高等学校選抜クライミング選手権大会実行委員会

(第4回) 10月20日(木)

於: 日山協事務局 高山常務理事

(8) 海外旅行保険打合せ

10月20日(木) 於: 日山協事務局

三井住友(小川、藤岡)、瀬田、尾形専務理事

(9) J I S スポーツ会議

10月20日(木) 於: 国立スポーツ科学センター

中川事務局員

(10) 国立スポーツ科学センター創立

- 10周年記念式典・懇親の夕べ  
10月20日(木) 於：国立スポーツ科学センター 神崎会長
- (11)中・高年齢安全登山指導者講習会(西部地区) 10月21日(金)～23日(日) 於：兵庫・六甲山系 國松副会長、西内常務理事
- (12)平成24年度日本スポーツ振興基金助成金説明会 10月24日(月) 於：日本スポーツ振興センター 中川事務局長
- (13)公益法人協会相談会 10月26日(水) 於：高輪研修センター 尾形専務理事、小野寺事務局長
- (14)山岳共済打合せ 10月27日(木) 於：日山協事務局 藤岡(三井住友)、瀬田、尾形専務理事
- (15)第50回全日本登山体育大会 10月28日(金)～30日(日) 於：福岡・英彦山周辺 神崎会長、内藤、國松副会長、尾形専務理事、仙石常務理事
- (16)平成23年度全国参加会 10月28日(金) 於：北九州市・国際会議場 神崎会長、内藤、國松副会長、尾形専務理事、仙石常務理事
- (17)新公益法人移行の実務に関するフォーラム 11月1日(火) 於：あずさセンタービル 尾形専務理事、小野寺事務局長
- (18)平成23年度山岳遭難対策中央協議会幹事会(第2回) 11月2日(水) 於：文部科学省7F第1会議室 西内常務理事
- 3. 議事**
- (1)平成23年度10月常務理事会議事録の承認について(2字訂正で承認)
- (2)平成23年度臨時理事会(11月)の議案について(提案通り承認)
- (3)平成24年度予算編成方針及び事業活動原案について(文言を整理して再提案することを承認)
- (4)2011年度ミズノスポーツメン トール賞候補者推薦について(事務局へ付託することで承認)
- (5)報告事項
- ア 会計月次報告  
イ 日中韓国際交流事業

- ウ U I A A 医事委員会報告  
エ U I A A, U A A A 総会報告  
オ 平成23年度山岳レスキュー講習会(積雪期・東部地区)開催要項について  
カ 第35回自然保護委員総会報告  
キ 第50回全日本登山体育大会報告  
ク 平成23年度山岳遭難対策中央協議会幹事会(第2回)報告  
ケ 中・高年齢安全登山指導者講習会の講習内容について  
コ 茨城県山岳連盟の提言に対する回答について  
サ 中国登山協会代表団の来日について
- 4. 役員等の派遣について**
- (1)市立大町山岳博物館創立60周年記念式典 11月3日(木) 於：J A 大北アプロード3F 八木原副会長
- (2)競技常任委員研修会 11月12日(土) 於：岸記念体育会館 高山常務理事
- (3)講師養成研修会 11月12日(土)～13日(日) 於：神奈川県山岳スポーツセンター 永井常務理事
- (4)雪崩防災週間及び雪崩防災シンポジウム実行委員会 11月16日(火) 於：国土交通省水管理・国土保全局 尾形専務理事
- (5)広島県山岳連盟創立70周年記念祝賀会 11月26日(土) 於：ホテルセンチュリー広島21 神崎会長
- (6)第2回自然保護指導員研修会 11月26日(土) 於：オリンピック記念青少年総合センター 石倉常務理事
- (7)東北ブロック競技研修会 11月26日(土)～27日(日) 於：秋田市中央公民館 高山常務理事
- (8)「山の日」制定協議会 11月30日(火) 於：H A T - J 尾形専務理事
- (9)日本勤労者山岳連盟望年会 12月2日(金) 於：労山事務所 八木原副会長、尾形専務理事
- (10)近畿地区山岳連盟総合会議

- 12月3日(土)～4日(日)  
於：比良山岳センター 神崎会長、國松副会長
- (11)第25回海外登山女性懇談会 12月6日(火) 於：I C I アースプラザ 神崎会長、佐藤常務理事
- (12)多摩雪雄百歳祝賀会並びにたまゆき句文集出版記念会 1月15日(日) 於：ゆうぽうと 本木顧問
- 5. 後援、協賛等の依頼について**  
招待教育講演「山岳救助—世界の最前線」の後援名義について(承認)
- 6. 報告**
- (1)自然保護指導員の承認 なし  
(2)指導員の認定承認  
①上級指導員 なし 指導員 なし  
②S C 主任検定員 なし
- 7. 通知、依頼、連絡、案内等**  
別紙の通り
- 8. 連絡事項**  
平成23年12月常務理事会 12月8日(木) 17:30～(岸記念体育会館103室)

## 編集後記

師走。真冬並みの寒気が南下、富士山の雪線も5合目あたりまで降りてきた。厳寒の冬山シーズンに入り、万全な計画、十分な装備、体力で安全登山をお願いします。「お国自慢の山」原稿ありがとうございます。随時掲載予定です。未提出の団体は引き続き協力を、まともれば冊子にも考えています。

2011年は自然災害の多い年でありました。被災された方々の一日も早い復興と来年がより良い年であることを祈願します。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第513号

定価 100円(送料別)

予約年間 1,200円送料共

昭和45年12月12日

第三種郵便物認可

(毎月一回15日発行)

発行日 平成23年12月15日

発行者 東京都渋谷区神南1の1の1

岸記念体育会館内

社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396

F A X 03-3481-2395